

2018年4月22日(日)／説教者:神谷武宏

説教:「神の前に留まりなさい」

聖書:コリントの信徒への手紙一7:17~24

今朝はコリントの手紙から「神の前に留まりなさい」と言うことですが、この箇所は、いろいろと問題のある言葉が並んでいます。奴隷のことに触れて、そのような者は奴隷という地位を気にせずに、「自由の身になる事が出来るとしても、むしろそのままでいなさい」とか、奴隷制度を肯定するような発言に聞こえてきます。ここはそのような社会的な視点で見るといっても、個々として“神と人”との関係の中で、神の前に留まるとは、あなたの“ありのままでいなさい”ということであるのです。

よく教会へ行きたいのだけれど、もう少し真面目になってからとか、タバコを辞めてからとか、お酒が止められないのでとか…。何か今の自分がもう少し、いわゆる世間的に真面目に、清くなってから、教会へ行くべき、神の前に出るべき…という考えが、しばしば聞かれる事ですが…。

キリストは、今のありのままのあなたを受け入れてくださるのです。あなたのありのままがいいのです。神の前に留まるとは、神のみ声に耳を傾けて、主の言葉に揺さぶられ、問いを投げかけられて歩むということです。

明日から、辺野古のゲート前では、「六日間 500 人結集しよう」という取り組みがなされます。今、辺野古の海が埋め立てられて、米軍の強大な新基地建設が進められています。軍事基地は戦争の何物でもありません。戦争の惨さを知る沖縄は、二度と戦争に巻き込まれることはあってはならない。そのような思いで辺野古では毎日座り込みが続けられています。

キリストの前に留まるとは、このような平和の問題、社会の問題にも留まり、考えて行く必要が生まれて来るのです。何故なら、イエス・キリストご自身が、社会の小さくされた者の側に、常に立っておられたからです。聖書の言葉に揺さぶられ、問われて歩んで行きたいものです。(神谷)